

for groomer

“STOP!! 肌荒れ”

グルーマーなら知つておこう
犬猫のスキンケア基礎知識

どうしてワンコは
「肌荒れ」するの？



犬に負担のないグルーミング講師が教える

犬にやさしい7つの法則

01 安心・安全であること

ワンコは食事もグルーミングも飼主さんに全幅の信頼を寄せていますので、ワンコのことをよく理解し、正しい情報をもとに学び、科学的な安心、情報を基にした体感できる安心を与えてください。

02 状況に気づくこと

ワンコはストレスがかかっていても表現をしない場合が多くあるので、首を傾けていたり、重心が偏っていたり、呼吸が早かったり、食欲が無かったり、、必死の異変のサインを見逃さないであげてください。

03 相手の気持ちになること

人とワンコでは常識が異なるので、まずはワンコをよく知り、その上で受け入れ、ワンコの立場になり、自分がされて嫌なことは決して愛犬にもしないようにしましょう。

04 コミュニケーションをとること

言語コミュニケーションに頼ってきた人とは違い、ワンコたちは非言語コミュニケーションを取ります。ワンコたちから出されているサインを見逃さず理解し、併せて接することで良好な関係を築けます。

05 快適に暮らすこと

以下の「5つの権利」を前提としてワンコが心豊かに過ごせる環境を創ってあげましょう。
「空腹や乾き、栄養不良にならない権利」「不快な状態に置かれることのない権利」「痛み、危害、病気で苦しまない権利」「明確で正常な行動を表現できる事由がある権利」「恐怖や苦痛でない権利」

06 時を大切にすること

ワンコは人が思うよりも濃密な時間を過ごしています。だからこそ共に過ごし、楽しみ、愛を持って関わり、感謝しあい、一瞬一瞬を大切にした良い想い出を創っていきましょう。

07 心に余裕を持ち、笑顔で接すること

人が心に余裕を持つことで①～⑥を可能にします。
まずは人が時間、お金、心のゆとりを持つことで、自然な笑顔とやさしさで接することが出来、ワンコたちも安心して信頼する事が出来るようになります。



スキンケア協力店

発行元

「人が好き、犬が好き、ありがとう」
(有)ワンクスクリエイション

<http://www.wanx.co.jp>
〒567-0852大阪府茨木市小柳町15-10
TEL072-636-1179 FAX072-636-1178
Mail : store@wanx.co.jp

お肌を健康に保つための7つの法則

近年、動物病院でもお肌のトラブルで通院している犬猫がとても増えています。大切な犬猫が可愛く、永く HAPPY でいるためにも、飼い主さんにも気を付けていただきましょう。



食 事

お肌は食事から摂った栄養で作られています。最近ではサプリメントが簡単に手に入るようになりましたが、できるだけ食事で摂取できるようにしましょう。タンパク質・炭水化物・脂質だけでなくビタミン・ミネラルも意識して摂取してください。※栄養素のバランスと食材の質（ヒューマンクオリティ）も重要です。



生 活

- ◎ 規則正しい生活の確保：食事や睡眠、活動などそれぞれが適切に確保されることで免疫力を高めることができます。
- ◎ 賦活（ふかつ）：ブラッシングやマッサージすることで、血液循環の改善を行いお肌の生理機能が高まり、健康なお肌や育毛、殺菌、炎症緩和が図れます。



ストレスケア

過度なストレスは血管収縮、血行不良、免疫力低下、睡眠不足、消化吸収の低下などお肌だけでなく多くの悪影響に繋がります。食事や休息、遊びや安心できる環境などを整えてあげましょう。またその子自身の性格や行動を理解することが大切です。



洗 淨

生活をしているとフケや皮脂などの老廃物が溜まったり、ホコリや汚れが蓄積したりします。それらを栄養に菌が繁殖し肌荒れにも繋がるので、お肌の状態を清潔に保ちましょう。×ゴシゴシ洗い
犬種・年齢・生活環境等に合わせて適切なお肌や被毛の管理（洗浄頻度・方法、ブラッシングなどで使用する道具の選択）を心がけましょう。



保 湿

お肌のバリア機能に元々備わっている保湿成分が少なくなると、乾燥やアレルゲンなどの外的刺激を受けやすくなるなど、かゆみによる自傷行為やストレスが原因で二次感染が起きたりなどと悪循環を招いてしまう可能性があります。日頃からの保湿ケアで健康なお肌を保ちましょう。



運 動

犬猫は運動をすることで腸が動き栄養を十分に吸収できるようになり、吸収した栄養を血液に乗せて全身に運ぶことができます。その上、筋力がつくことで正常な骨格が形成され内臓も正常に機能します。また日光に当たることでビタミンの生成などもできるので、お外での運動を心掛けてください。ただし散歩と運動は違うのでご注意ください。

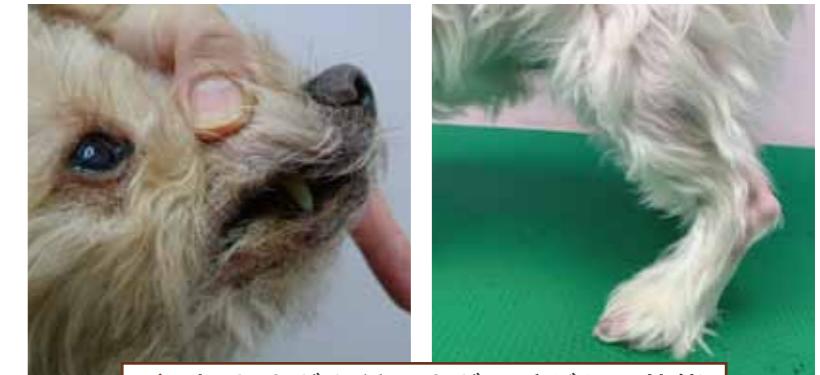


環 境

- ◎ 清潔な生活環境：お肌が荒れる原因としてカビやホコリもあげられます。清潔な暮らしができる環境をつくってあげましょう。
- ◎ 快適な生活環境：冷房・暖房のし過ぎや部屋の乾燥、シャンプーの時に熱いお湯を使用しないなどということに注意しましょう。
- ◎ 刺激の少ない環境：爪のお手入れやアレルゲンや刺激物などの除去などに気を付けましょう。

どうして「肌荒れ」は犬猫によくないの？

肌荒れはお肌のバリア機能を低下させ、雑菌やアレルギー物質などの外的刺激物を侵入させやすくなったり、雑菌が繁殖しやすくなることで苦痛を感じることも多くなります。また、肌荒れが進行し引っかいたりすることで傷口となりシャンプー剤やリンス剤で痛みなどの刺激を感じたり、さらに進行するとブラッシングや触られることにも嫌になり、ますます清潔な状態を保つのが難しくなります。さらにお肌の常在菌のバランスが崩れたり、皮脂が過剰に分泌してしまうと臭いの発生や痒みを引き起こし、重症化してしまう場合もあります。特に酷い肌荒れ状態のワンコが来店した場合は、* カウンセリングをしっかり行い、犬猫だけでなく人にも感染する恐れがあるので、お預かりをお断りをして動物病院への受診を促すことも必要です。人も、愛する愛犬愛猫と共に HAPPY に過ごすためにも健康なお肌であることは必要不可欠です。※カウンセリングは自分・自店の考え方や方法を押し付けるものではありません。



↑ 握りすぎや舐めすぎで毛がない状態



↑ 赤みがある状態

↑ 湿疹やカサブタがある状態

↑ お肌が乾燥している状態

良いグルーミングサロンとは 「飼い主さんと犬猫に寄り添えているお店」

- ・私たちが観るのはお店に居るときだけなので、ご家族から情報を聞き犬猫の状態を把握しましょう。
- ・飼い主さんに適切なアドバイスを行い、定期的なご来店と日々の自宅ケアもシッカリと行っていたいている。
- ・スキンケアに関して日々勉強を行い、お店で共有し、お肌に負担をかけない正しい洗浄、施術できている。
- ・穏やかな雰囲気の中で、ワンコに過度なストレスを与えない空間づくりがお店の中でできている。
- ・近隣の動物病院はもちろん、広く交流を持ち獣医師とも連携を取り、適切な対応が出来ている。

まずは飼い主さんの想いをシッカリ聴いて、理解し、寄り添うことが大切です

「肌荒れ」レベル

肌荒れレベルは0～4

肌荒れレベルを理解する事で重症化を未然に防ぐ事も可能です。

※チェック表ではよくある肌荒れケースを紹介しています。
ほかにも様々なケースがある為、発見した場合は自己判断せず獣医師へ相談しましょう



レベル0：健康肌

—血色がよく、ハリがあり、キメが整っている—

お肌状態：お肌のバリア機能が正しく機能している状態

主な原因：正しい食事、グルーミングが出来ている

対応方法：季節の変化や加齢に伴いお肌の状況が変化していくことを理解し、現状維持を目指す

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

食事や環境の変化などが無いか毎回カウンセリングを行いながら自宅＆サロンケアを継続していく。



レベル1：敏感肌

—見た目は奇麗だが気が付くと搔いたり舐めたりしている—

お肌状態：部分的に毛が薄かったり、肌に赤みやかゆみがある状態

主な原因：心因的要因、外傷、外部寄生虫（ノミ・ダニ）、アレルギー初期症状

対応方法：刺激物の除去、生活環境や食事の見直し、低刺激シャンプーへ切り替えなど

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

今までに使用したシャンプーやフードをリストアップして変更を検討する。ストレスや刺激となっている可能性があるものを変更または除去する（定期駆虫、散歩コース、敷物、清掃用品などの薬品）搔いたり舐めたりしてお肌のバリア機能の低下による二次感染を防ぐために清潔に保つ。ライフスタイルを見直し、睡眠・運動などストレス軽減して快適に過ごせる様にしましょう。



レベル2-1：乾燥肌

—白いフケが出ている。お肌がカサカサしている—

お肌状態：お肌の水分保持力が衰え、お肌のバリア機能が低下している状態

主な原因：皮脂腺の機能低下、ホルモンバランスの低下、栄養不足、間違った洗浄、空気の乾燥、アトピーなど

対応方法：食事や洗浄方法の見直し、保湿、低温入浴、基礎疾患のチェックなど

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

お肌の乾燥はお肌のバリア機能の低下に繋がり、痒みによるストレスや自傷行為、アレルギー物質の侵入など重大なトラブルに繋がる恐れがあるので協力して早期解決を目指しましょう。保湿ケアはシャンプーの時のみならず毎日のホームケアとして取り入れましょう。



レベル2-2：脂漏肌

—黄色いフケが出ている。お肌がベタベタしている—

お肌状態：お肌や毛がしっとり又はベタついたり毛が束になっている。体臭や赤みがある

主な原因：皮脂の過剰分泌、洗浄不足、代謝異常、皮膚常在菌のバランスの乱れ、感染、食事の偏り、など

対応方法：感染の有無の確認（獣医師）、基礎疾患のチェック、適切な洗浄、保湿、食事の見直し、ライフスタイル、生活環境の見直しなど

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

フケやべたつきを落とそうとして洗浄力の強いシャンプーでゴシゴシ洗いをするとお肌をさらに悪化させてしまいます。クレンジングオイルや弱酸性の低刺激シャンプーを用いて泡で優しく丁寧に洗浄し、しっかり保湿も行いましょう。その上で食事の見直しや、睡眠・運動などのライフスタイルも見直していきましょう。



レベル3：湿疹、腫れ、脱毛

—お肌にできものがあったり、赤く腫れたりしている—

獣医師相談

施術前に動物病院へ受診をお薦めしましょう



お肌状態：お肌がブツブツしたり腫れている。膿やかさぶたが付いている状態

主な原因：感染、アレルギー、蕁麻疹、免疫機能異常、腫瘍など

対応方法：できものを検査し診断に基づいて治療をしてもらう
サロンでは獣医師から処方されるシャンプーや外用剤があればそれを使用し、最後に保湿も行う

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

定期的に獣医師の診察を行いながらサロンや自宅ではお肌のバリア機能を低下させないようスキンケアを並行していく。お肌の状態が急激に悪化したり症状の改善が見られないようであればセカンドオピニオンも含め再度診察を促す。

レベル4：激しい痒み

—激しく痒がり、脱毛やお肌が分厚くなっている—

緊急事態

感染の可能性もあるので早急に診断・治療を

お肌状態：激しい痒みお肌の肥厚、過剰なフケ、脱毛、悪臭など

主な原因：外部寄生虫の感染（ノミ・ダニ・疥癬）、真菌、アレルギーを伴った重度アトピー、リンパ腫など

対応方法：来店時にこの様な症状が見られた場合、人や犬にも移る感染症の可能性もあるためトリミングをせずに速やかに動物病院へ受診していただくよう促す。（アトピー・アレルギーは移らない）店内感染を防ぐため他の犬と予約時間をずらし、カットした毛や使用した道具は徹底的に清掃する



今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

疥癬やノミ・ダニ・真菌であった場合、トリマーやご家族にも移るので清掃、消毒を徹底する

※サロンで施術してしまった場合の注意点

シャンプーやブロー時も毛が飛び散るので十分に注意しながら行う。

感染症に使われる薬用シャンプーは刺激が強いものが多いため、肌の弱いトリマーはゴム手袋などを着用し、洗浄後は犬にも人も保湿ケアを行う長時間の肌接触、タオルなどの共用はしない。洗濯物などはビニールに入れて移動。ケージやブラシなどは洗浄・消毒をしてから使用する。

レベル2-3：脂漏性皮膚炎

—皮膚が赤く腫れたり、脱毛している—

お肌状態：お肌や毛がしつこい又はベタついたり毛が束になっている。体臭や赤みがある

主な原因：皮脂の過剰分泌、洗浄不足、代謝異常、皮膚常在菌のバランスの乱れ、感染、食事の偏り、など

対応方法：感染の有無の確認（獣医師）、基礎疾患のチェック、適切な洗浄、保湿、食事の見直し、ライフスタイル、生活環境の見直しなど

今後の対策・飼い主さんへのアドバイス：

フケやべたつきを落とそうとして洗浄力の強いシャンプーでゴシゴシ洗いをするとお肌をさらに悪化させてしまいます。クレンジングオイルや弱酸性の低刺激シャンプーを用いて泡で優しく丁寧に洗浄し、しっかり保湿も行いましょう。その上で食事の見直しや、睡眠・運動などのライフスタイルも見直していきましょう。



正しいスキンケアが出来ているか？ Check!!

- シャンプー前にお肌の状態をチェックをしていない
- 飼い主さんとコミュニケーションを取り、きちんとカウンセリングしていない
- シャンプーは1度洗いしかしていない
- 入念にすすぎをしていない
- 全犬種猫種に同じシャンプーを使ってる
- 特に保湿はしていない
- 全犬種猫種に同じ洗い方をしている
- 長期間薬用シャンプーを使用している
- ゴシゴシとこすり洗いをしている
- 時間に追われてピリピリと仕事をしている

1つでも当てはまっていたら
ワンコ、ニャンコは
肌荒れの危険があるかも？



犬猫のスキンケア ワンポイント講座

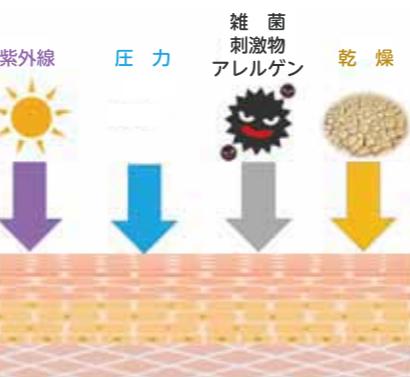
グルーマーができる「スキンケア」ってどんなの?

湿疹や炎症がある場合は、まずは獣医師に相談するようお勧めしましょう!

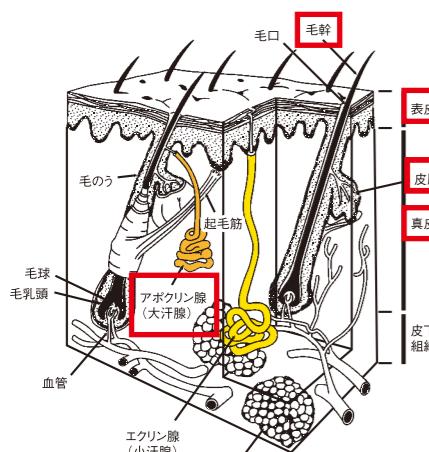
ポイント1 《お肌は何のためにあるの?》

◎ 最も過酷な環境におかれた臓器と言われる場合もあります。

- ①皮膚バリア機能 ②感覚器官 ③体温調整 ④体の形を保持



ポイント2 《お肌の構造とそれぞの働き》



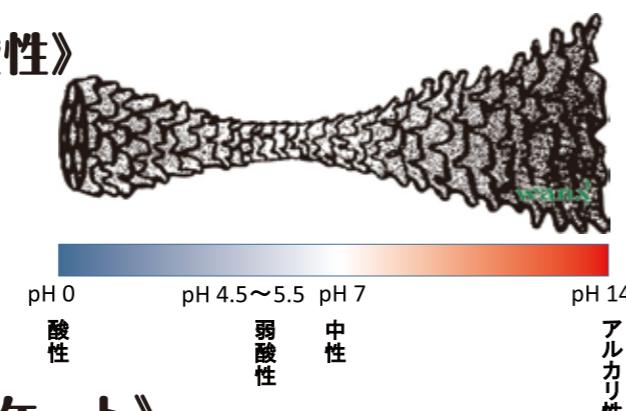
表皮	お肌の最も外側に存在し、外部に触れる部分。 お肌バリア機能に重要な役割を持つ。
真皮	お肌の強さやしなやかさに関わる部分。
被毛	お肌に直接触れる刺激や摩擦を軽減させる。
皮脂腺	お肌を生産する分泌腺。 汗と混ざり皮脂膜となりバリア機能を持ちます。
アポクリン腺 (大汗腺)	タンパク質を含んだ汗を生成する分泌腺。 犬の体の大部分を占める汗腺です。 (人はエクリン腺)

ポイント3 《犬猫のお肌と被毛は弱酸性》

お肌も被毛を守るキューティクルが多くがケラチントンパクで構成されています。

ケラチントンパクはアルカリ性で開き、弱酸性 (pH5前後) で引締まるという特性を持っているので、

表皮やキューティクルが引き締まっていると、乾燥やアレルゲンの侵入、雑菌バクテリアの侵入・増殖から守ることができます。



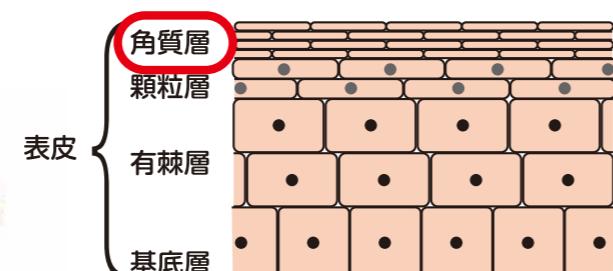
ポイント4 《犬猫のお肌はとてもデリケート》

表皮はお肌のバリア機能の主役としての働きのある場所で、人間や犬も猫も皮膚表面は角質層で覆われている。

角質層は人間で平均12~20層からなるのに対し、

犬猫は5~7層で人間の1/3~1/5程度しかありません。

(顔のまぶた程度の角質の厚み)



古くなった角質は菌の温床

古くなった角質と酸化した皮脂がお肌に残っていると、それらをエサにしている菌が増殖し「肌荒れ」を引き起こしやすくなります。定期的なシャンプーやブラッシングなどで皮膚本来が持つ機能を高める(賦活)事も大切です。

サロンの施術だけで犬猫のお肌を健康で綺麗な状態を保つにはどうしても限界があります。飼い主さんも愛犬愛猫も健康なお肌で快適でHAPPYに過ごせるために、しっかりアドバイスをしていきましょう。

洗浄にこだわる

ひとことで「洗う」といっても汚れの種類も度合いもまちまちで、それによって洗浄成分や洗浄方法を変えましょう。

- ・弱酸性の洗浄剤を使用する
- ・汚れに応じた洗浄成分を使う
- ・こすらずに泡を動かして洗う
- ・汚れに応じて洗浄剤を適量使用する



すぎすぎにこだわる

シャンプーやリンスなどのほとんどは化学物質ですので、すぎすぎ残しが肌荒れにつながることもあるのでシッカリすすぐことが重要です。

※指の間、脇、内股、耳。は特にすぎすぎ残しを起こしやすいので、ご注意ください。



乾かしにこだわる

犬猫は人と比べると毛量が非常に多いです。
乾いたつもりでもお肌に湿り気があると雑菌の繁殖原因になりますのでシッカリとお肌を乾かすことが大切です。

※指の間、脇、内股、耳。は特に乾かしにくいのでご注意ください。



保湿にこだわる

お肌が乾燥するとお肌のバリア機能が低下し、乾燥が促進し、刺激を受けやすくなることで、アレルゲンや微生物の侵入などによりトラブルを引き起こしやすくなります。



サロンの空間創りにこだわる

犬猫はお店の雰囲気を敏感に察知します。
ピリピリとした雰囲気ではストレスレベルが上がり、お肌の状態を悪化させる要因となります。ゆとりあるお仕事をするように心がけましょう。

- ・時間に追われてませんか?
- ・スタッフ間のコミュニケーションは取れてますか?



飼い主、獣医さんとの

コミュニケーションにこだわる

日ごろの状態は飼い主に聴かないと分からぬ事も多く、トラブルが発生した時に日頃から獣医師さんと関りをもっておくことも非常に大切です。

